

主述フレーズを目的語に取る助動詞

中 桐 典 子

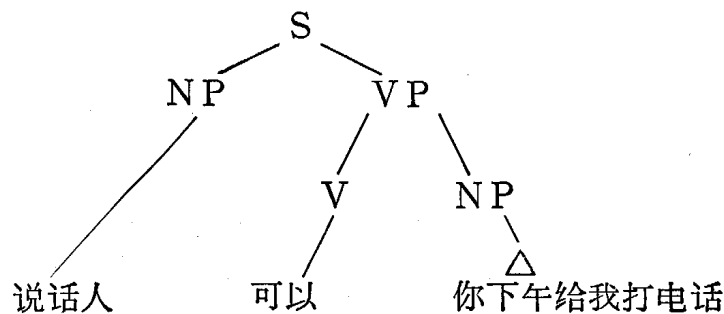
0. 一般的な語法書には「助動詞は主述フレーズを目的語に取る」という記述が見られ、例として“今天应该小李值班。”のような例が挙げられているケースが多い。他の助動詞もすべて主述フレーズを目的語に取れるのか？また、どのような場合にそれが可能なのか？本稿では、このような疑問から主述フレーズを目的語に取る助動詞について考察を試みるものである。

许和平によれば、「助動詞には、言表事態に対する話し手の把握の仕方を表すものと、言表事態に対する主語の心理・状態を表すものがある」という。

(1) 你可以下午给我打电话。

(2) 他可能去北京。

(1), (2)の助動詞は共に言表事態に対する話し手の把握の仕方を表している。つまり、(1)を例にとれば「あなたが午後私に電話をかける」という言表事態に対して「話し手」が「差し支えない」という認識を持ったことを表しているのである。许和平は以下のように分析している。



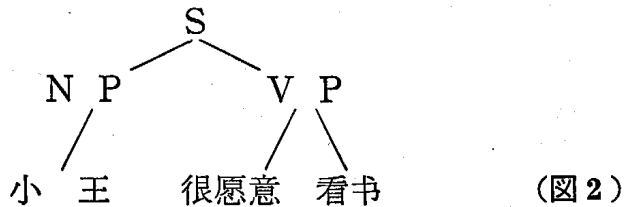
(图1)

(3) 小王很愿意看书。

(4) 他能走。

これに対し、(3), (4)の助動詞は言表事態に対する主語の心理・状態を表してお

り许和平によれば(図1)のようになる。この場合、“愿意”が支配するのは[本を読む]にとどまり、動詞の主体である“小王”は“愿意”の支配の外におかれる。



このように(图2)型の助動詞が動詞フレーズのみを支配するのに対し、(图1)型の助動詞は意味上主述フレーズ全体を支配する。そうである以上、形式上も(图1)型の助動詞を主述フレーズに前置させることも可能と考えられる。ところが、実際は次のように必ずしも成立しない。

(1)' *可以你下午给我打电话。

(2)' 可能他去北京。

そこで、どのような助動詞が、どのような条件のもとで主述フレーズからなる言表事態に前置できるのかについて考察したいと思う。主述フレーズを目的語に取る助動詞には次のような例もみられる。

(5) 他很愿意小王看书。

(6) 这种精神值得我们学习。

(5)は(3)と比べると“愿意”の主体が異なっている。(3)は“小王”が、(5)は“他”が、それぞれ“愿意”の主体となっている。また、(6)は“我们”を取り出し“*我们值得学习这种精神”とすることができない。本稿では、動詞の主体を助動詞の前においても後ろにおいても助動詞の主体が“说话人”であるような助動詞、つまり、(图1)型の助動詞¹⁾を考察対象としたい。

1. ここではまず、助動詞が主述フレーズに含まれる場合と主述フレーズに前置された場合の意味上の相違点について考えてみる。例えば、“今天他去哪儿?”(今日彼はどこへ行くのか)に対する答えとして「彼は北京へ行かなくてはならないんだ」と言いたいときは、

(7) 今天他应该去北京。

主述フレーズを目的語に取る助動詞

と、助動詞“应该”が“他去北京”という主述フレーズに含まれる形になる。これに対し“今天谁去北京？”（今日は誰が北京へ行くのか）に対して「彼が行かなくてはならないんだ」と言いたいのであれば、

(8) 今天应该他去北京。

となり、助動詞が主述フレーズに前置する形になる。(8)より明らかなように、助動詞が主述フレーズに前置された場合は動詞の主体にポイントがおかれるのである。日本語の「は」と「が」の使い分けがこの辺りの事情をよく表している。このように動詞の主体にポイントがおかれるケースの一つとして主題が主述フレーズに前置される構造が考えられる。他にも動詞の主体にポイントがおかれるという事情を支えるような複文構造、対比構造²⁾などが考えられるが、本稿では対象を単文に絞り、主題の有無との関わりの中で主述フレーズを目的語にとる助動詞について検討を加える。

その前にまず「主題」についてふれておく。一般に述語に対するものを主語とするのに対し、評論に対するものを主題と呼ぶ。談話とは、既知の旧情報を主題として文頭に置き、それに対し新情報である評論を加えることである。従来、主題研究の対象となって来たのは以下4タイプの文である。

(1) [NP₁+NP₂+VP]

他眼睛很漂亮。

(2) 目的語を文頭に置いた文

这本书我看过。

(3) 時間、場所を表す語を文頭に置いた文

上海我有熟人。

(4) 存現文

台上坐着首席团。

しかし、本稿では主題をもう少し広く捉え、意味上話題を提供していると考えられるものと定義しておく。

2. ある主述フレーズから主題を取り出す場合、目的語を取り出す場合と、状語を取り出す場合とが考えられる。本節ではもっとも単純な構造として主述フ

フレーズの中に主題として取り出せる要素、すなわち状語、あるいは目的語が一つ含まれるような文構造について考える。

2-1 状語を主題化する場合

まず、主述フレーズの中から状語を取り出し主題化する場合について考察する。

『現代中国語文法総覧』によれば、「助動詞を含む文は、述語全体が修飾語を持つことができる。普通は、時間、場所、目的を表す状語、あるいは“关于”，“对于”等からなる状語で、助動詞の直前におくこともでき、文頭におくこともできる。」という。状語と一口に言っても、その種類も数も多いが、今主述フレーズの中の状語を文頭に取り出し主題化するという試みをするに当たって、状語を助動詞の前に取り出せるもの、つまり上記の4つのパターンに限定したい。そしてまず、それぞれの助動詞が状語を含んだ主述フレーズに前置できるか、つまり

助動詞＋[主語＋状語＋述語]

が、可能か、また、状語を主題化して文頭に取り出した場合はどうか、つまり、

主題(状語)＋助動詞＋[主語＋述語]

が、可能か、について検討してみる。

2-1-1 場所を表す状語

まず、場所を表す状語を含む主述フレーズに前置できる助動詞はどれか、について考える。

(9) □他在上海当翻译。

可能

(9)において□に挿入し成立するのは“可能”だけで、他は非文となる。ここで“在上海”を文頭に取り出し[上海では]のように主題化する操作を施す。

(9)′ 在上海□他当翻译。

可能、应该、得、要

“可能”以外に“应该”、“得”、“要”が成立する様になる。別の例をみってみる。

(10) □今天会上他做报告。

主述フレーズを目的語に取る助動詞

可能

やはり“可能”だけが成り立つ。

(10) 今天会上□他做报告。

可能、应该、得、要

同様の結果となる。ここで、“在上海”、“今天会上”は、介詞“在”，方位詞“上”がついているので厳密には主題とはいえないが、「上海では」、「今日の会議では」というように意味上話題を提供していると考えられるので、本稿では広義の主題として扱う。狭義の主題の例を挙げておく。

(9) 上海□他当翻译。

可能、应该、得

(9)と比べると、“要”が助動詞としては、つまり「～しなければならない」の意味では成立しなくなる。「上海では彼を通訳の任に当たらせる」という使役の兼語文における動詞と解釈されるからである。助動詞の“要”で成立させるためには、場面設定の主題であることをはっきりさせるためのマーク、介詞“在”や方位詞“上”などが必要となってくる。また、インフォーマントによれば“在”がなくても“上海”のあとにコンマ(,)を置き一呼吸入れた場合も助動詞として成立可能という。

上海，要他当翻译。

以上より、場所を表す状語を含む主述フレーズに前置できる助動詞は“可能”のみであるが、その状語を主題化し文頭に取り出した場合、“应该”、“得”も成立するようになる。また、場面設定であることを明示する介詞、方位詞、コンマなどがある場合“要”も成立する。

2-1-2 時間を表す状語

次に、時間を表す状語が主述フレーズに含まれる場合について考える。

(11) □他下午给我打电话。

可能

□に挿入できる助動詞はやはり“可能”のみで他は非文となる。ここで状語“下午”を文頭に取り出し主題化してみる。

(11) 下午□他给我打电话。

可能、应该、得、要

“应该”、“得”、“要”も成立するようになる。

もう一例挙げる。

(12) □今天你爸爸值班。

可能

(12') 今天□你爸爸值班。

可能、应该、得、要

同様である。

2-1-3 目的を表す状語

次に目的を表す“为了”に導かれる状語を含む主述フレーズについて考える。

(13) □他为了工作去。

可能

目的を表す状語“为了工作”を内包した主述フレーズを目的語に取れるのはやはり“可能”のみである。ここで、これまでと同様に“为了工作”を取り出して主題化し前置する。

(13') 为了工作□他去。

可能、应该、得、要

これまでと同様，“可能”のほかにも“应该”、“得”、“要”でも成立するようになる。

2-1-4 “关于”、“对于”を伴う状語

次に“关于”、“对于”に導かれる状語についても同じように試みる。

(14) □关于这个词他可以解释。

?可能

(14') 关于这个词□他(可以)解释。

可能、应该、得、要

(15) □对于我的说法他们商量。

?可能

(15') 对于我的说法□他们商量。

主述フレーズを目的語に取る助動詞

可能、应该、得、要

“关于”、“对于”を含む状語を主題化した場合も他の状語の場合と同様“可能”のほかに“应该”“得”、“要”で成立するようになる。ただし、“关于”、“对于”は文頭に来易い性質を持つため“关于”、“对于”の前に“可能”を置くと、少し違和感が残る。

2-1-5

以上、状語を主題化する場合についてみてきた。“可能”は(図1)型助動詞の中であって、特殊な振る舞いをする。つまり、主述フレーズの中に状語が含まれている場合、その状語を主題化するしないにかかわらず、主述フレーズを目的語とできる。これは蓋然性を表す副詞“大概”、“好像”などの性質と同じである。

- (9) →大概他在上海当翻译。
在上海大概他当翻译。
- (11) →大概他下午给我打电话。
下午大概他给我打电话。
- (13) →大概他为了工作去。
为了工作大概他去。
- (14) →大概关于这个词他可以解释。
关于这个词大概他可以解释。

この点では“可能”は副詞的性質を持つ助動詞と考えられよう。

また、“应该”、“得”、“要”は、文頭に何もないうち、状語を含む主述フレーズを目的語とすることはできないが、その状語を取り出し主題化した場合、主述フレーズを目的語に取れるようになる。(但し、“要”が兼語文の動詞とぶつかるときは状語の主題化を明示するマークが必要。)“应该”、“得”、“要”には共通して、一つの要素のみを取り立てる機能があるのだろうか？(9)で非文となった。

(*应该/*得/*要) 他 在上海当翻译。

には、取り立て可能な要素として“他”、“在上海”の二つが含まれている。要素が二つ含まれているがゆえに非文になったとは考えられないだろうか？二つ

の要素のうち一つを文頭に取り出し一つを助動詞の支配下に残した場合は確かに成立する。

他（应该／得／要）在上海当翻译。

在上海（应该／得／要）他当翻译。

次項では、目的語を含む主述フレーズ主題化する場合にも同じ現象が見られるかどうか観察したい。

2-2 目的語を主題化する場合

まず、目的語を主題化するにあたっては一つの制約がある。つまりその目的語が旧情報でなくてはならないということである。例えば、本稿はじめの“你可以下午给我打电话。”における“电话”は“打”の目的語ではあるが、特定された“电话”ではないので主題化できずここで扱う目的語とは異なる。ここでは“这个”、“那个”などで導かれる名詞、また地名など広く知られているものなどが対象となる。また、動詞と目的語との関係にはさまざまなものがあるが、ここでは、動作・行為の場所を表す目的語、動作・行為の対象を表す目的語について例を挙げる。まず、場所を表す目的語について、その目的語を伴った主述フレーズに前置できる助動詞について考える。

(16) □他去北京。

可能、应该

ある文脈の中では“可能”のほかにも“应该”で成立する。インフォーマントによれば、“可能”は「彼が北京へ行くかもしれない」のように単純な用い方ができるのに対し、“应该”のほうは「(今日は) 彼が北京へ行かなくてはならない」あるいは「(〇〇の仕事のために) 彼が北京へ行かなくてはならない」などのようにある文脈の中で用いられるという。前項で、“应该”が状語を主題化した場合にのみ後続の主述フレーズを支配しえたことと合い通じるものがある。次に目的語“北京”を主題化してみる。

(16') 北京□他去。

可能、应该、得、要

“可能”、“应该”以外に“得”、“要”で成立するようになる。次に目的語が対象を表す例を挙げる。

主述フレーズを目的語に取る助動詞

(17) □他看这本书。

可能、应该

(17') 这本书□他看。

可能、应该、得、要

同様である。目的語を主題化する場合も無条件に文頭におけるのは“可能”のみであるが前述のようにある文脈がある場合は“应该”でも成立しうる。たとえば、

(18) 他们今天解决这个问题。

という状語、目的語共に含まれる文があった場合、状語“今天”を取り出し主題化した文(18')、目的語“这个问题”を取り出し主題化した文(18'')は共に“应该”を伴って成立する。

(18') 今天应该他们解决这个问题。

(18'') 这个问题应该他们今天解决。

ここで(18)の文において主題“今天”がなくなり

(18''') 应该他们解决这个问题。

となった場合でも“今天”が想定できるときには成立する。ところが、(18)の主題“这个问题”がなくなった場合

(18''''') *应该他们今天解决。

は、“这个问题”が想定できる場合でも成立しにくい。もう一例挙げる。

(19) 他们为革命去北京。

という、状語、目的語を共に含む文において状語“为革命”を主題化した場合には、“应该”で成立するが、目的語“北京”を主題化して状語を主述フレーズに残した場合は成立しない。

(19') 为革命应该他们去北京。

(19'') *北京应该他们为革命去。

つまり、“应该”は目的語を含む主述フレーズを目的語に取ることはできるが、状語を含む主述フレーズを目的語として取る場合制約がある。

また、“得”は時間・場所を表す状語で見られた現象と同じように、目的語を含む主述フレーズを目的語にとれないが、その目的語を主題化すれば主述フ

レーズを目的語に取れるようになる。“要”は状語の場合と異なり、単独の名詞が主題として文頭に置かれた場合でも、助動詞の“要”として成立できる。

前項で“应该”、“得”、“要”には一つの要素のみを取り立てる機能がある可能性を示唆したが、“应该”にはあてはまらないようである。

应该他们解决这个问题。

为革命应该他们去北京。

共に主語と目的語の二つの要素を取り立てている。ここにおいて、“得”、“要”は一つの要素だけを取り立てることができ、“应该”は主語と状語を同時に取り立てることはできないが、主語と目的語であれば同時に取り立てることができた。

次節では、状語、目的語を二つ含む主述フレーズについて主題化を通して検討してみたい。

3. 前節で扱った4つの状語と目的語、計5つの要素を2つずつ組み合わせて10通りの場合を設定する。そしてそれぞれの場合に

助動詞+[主語+要素1+要素2+述語]

が可能か、また、要素を1つ文頭に取り出し、1つ主述フレーズに残した場合、成立するか。つまり

要素1+助動詞+[主語+要素2+述語]

要素2+助動詞+[主語+要素1+述語]

が可能か、について検討したい。

3-1 時間状語と場所状語

(20) □他明天在礼堂里讲话。

可能

時間を表す状語“明天”と場所を表す“在礼堂里”を含む主述フレーズを目的語に取れるのはやはり副詞的要素の強い“可能”のみである。この文の中から要素1“明天”を文頭に取り出し主題化するとどうなるだろう。

(20') 明天□他在礼堂里讲话。

可能、应该

主述フレーズを目的語に取る助動詞

“应该”でも成立するようになる。次に要素2であるところの“在礼堂里”を主題化して文頭に取り出す。

(20) 在礼堂里□他明天讲话。

φ

挿入して成立するものはなくなる。

以下、同様に2から10、まで試してみる。

3-2 場所状語と目的状語

(21) □经理在饭店为了工作请客。

可能

“为了工作”を主題化する。

(21)' 为了工作□经理在饭店请客。

可能、应该

“在饭店”を主題化する。

(21)" 在饭店□经理为了工作请客。

φ

3-3 場所状語と“关于”

(22) □关于这个问题他在学校里讲过。

可能

“关于这个问题”を主題化。

(22)' 关于这个问题□他在学校里讲过。

可能、应该

“在学校里”を主題化。

(22)" 在学校里□关于这个问题他讲过。

?可能

3-4 場所状語と目的語

(23) □他在礼堂里朗诵这篇文章。

可能

“在礼堂里”を主題化。

(23)' 在礼堂里□他朗诵这篇文章。

可能、应该、得、要

“这篇文章”を主題化。

(23) 这篇文章□他在礼堂里朗诵。

可能、应该、得、要

3-5 時間状語と目的状語

(24) □经理明天为了工作要请客。

可能

“明天”を主題化。

(24') 明天□经理为了工作(要)³⁾请客。

可能、?应该

“为了工作”を主題化。

(24'') 为了工作□经理明天要请客。

可能

3-6 時間状語と“关于”

(25) □关于这件事他明天要讲。

可能

“关于这件事”を主題化。

(25') 关于这件事□他明天(要)讲。

可能、应该

“明天”を主題化。

(25'') 明天□关于这件事他要讲。

?可能

3-7 時間状語と目的語

(26) □他明天要看这本书。

可能

“明天”を主題化。

(26') 明天□他(要)看这本书。

可能、应该、得、要

“这本书”を主題化。

主述フレーズを目的語に取る助動詞

(26) 这本书□他明天(要)看。

可能、应该、?得、?要

3-8 目的状語と“关于”

(27) □关于这件事他为小李讲话。

可能

“关于这件事”を主題化。

(27) 关于这件事□他为小李讲话。

可能、应该

“为小李”を主題化。

(27) 为小李□关于这件事他讲话。

φ

3-9 目的状語と目的語

(28) □经理为了工作要增开今天的会议。

可能

“为了工作”を主題化。

(28) 为了工作□经理(要)增开今天的会议。

可能、应该

“今天的会议”を主題化。

(28) 今天的会议□经理为了工作要增开。

φ

3-10 “关于”と目的語

(29) □关于这个词他查那本书。

“关于这个词”を主題化。

(29) 关于这个词□他查那本书。

可能

“那本书”を主題化。

(29) 那本书□关于这个词他查。

φ

4. まとめ

以上2節と3節で得られた結果を次の一覧表にまとめてみる。縦軸に主題化によって文頭に取り出される要素，横軸に主述フレーズの中に残される要素を取ってある。この表をもとにそれぞれの助動詞についてどのような場合に主述フレーズを目的語に取れるようになるのかまとめて結論としたい。

《可能》比較的自由に主述フレーズを目的語に取れる。副詞的性質が強いと言える。但し，場所を表す状語を主題化した場合，他の状語を含む主述フレーズを取りにくい。また，“关于”、“对于”に導かれる状語は文頭に来やすいため，これらを含む主述フレーズを取りにくい。

SV中 主題化	“关于”	時 間	目 的	場 所	目的語	φ
“关于”		可 * * 应	可 * * 应	可 * * ?应	可 * * *	可 得 要 应
時 間	?可 * * *		可 * * ?应	可 * * 应	可 得 要 应	可 得 要 应
目 的	* * * *	可 * * *		可 * * ?应	可 * * 应	可 得 要 应
場 所	?可 * * *	* * * *	* * * *		可 得 要 应	可 得 要 应
目的語	* * * *	可 ?得 ?要 应	可 * * *	可 得 要 应		可 得 要 应
φ	?可 * * *	可 * * *	可 * * *	可 * * *	可 * * 应	

表中の「可」は「可能」
「应」は「应该」

《应该》状語を主題化することにより，主述フレーズを目的語に取れるようになる。その場合，別の状語，目的語を含む主述フレーズをも取りうる。2節で“应该”は主語と状語を共に含む主述フレーズを目的語に取らない可能性

主述フレーズを目的語に取る助動詞

を示唆したが、場合によってはそのような主述フレーズをも取りうるということがわかった。但し、その場合、状語の主題化には順序があり、逆は成立しない。

关于>時間>目的>場所

つまり、主述フレーズの中から状語を取り出し主題化するに当たって主題化の順序の高いもの、すなわち、この表では左側に位置するものを優先的に主題化し文頭に取り出す必要があるのである。例えば、(20)で、

他明天在礼堂里讲话。

という文をあげたが、“明天”、“在礼堂里”という二つの状語のうち、表の左側に位置する“明天”一時間状語一を主題化し“在礼堂里”一場所状語一を主述フレーズに残した場合成立するが、

明天应该他在礼堂里讲话。

逆に“在礼堂里”を取り出し“明天”を残すと成立しない。

*在礼堂里应该他明天讲话。

(21), (22), (24), (25), (27)でも同様のことが言える。

(21) 目的>場所

为了工作应该经理在饭店请客。

*在饭店应该经理为了工作请客。

(22) 关于>場所

关于这个问题应该他在学校里讲过。

*在学校里应该关于这个问题他讲过。

(24) 時間>目的

明天应该经理为了工作请客。

*为了工作应该经理明天请客。

(25) 关于>時間

关于这件事应该他明天讲。

*明天应该关于这件事他讲。

(27) 关于>目的

关于这件事应该他为小李讲话。

*为小李应该关于这件事他讲话。

この主題化の優先順序は多項状語の配列順序と一致する。“可能”においても場所状語の主題化では他の状語を含む主述フレーズを取りにくかったが、これも場所状語の主題化優先順序が低いことと関係していよう。

これらを“应该”の取り立て機能の面から考察すると次のようになる。

主語+应该+状語1+状語2+動詞

という基本の文(“应该”が状語1と状語2を取り立てている。)を変形させて主語を取り立てようとした場合、主語を“应该”の支配下に置く代わりに主題化優先順序の高い状語1を主述フレーズから追い出し文頭に取り出さなければならないのである。基本の文において、無条件に主語を移動させ主述フレーズに組み込み、取り立てることはできないのである。

以上は、状語についてだが、“应该”はまた、目的語の主題化によっても主述フレーズを目的語に取れるようになる。その場合、時間状語、場所状語を含む主述フレーズを取りうる。

(23) 这篇文章应该他在礼堂里朗诵。

(26) 这本书应该他明天看。

但し、目的状語，“关于”、“对于”に導かれる状語はこの限りではない。

《得》、《要》状語の主題化により単純な主述フレーズをとれるようになる。“应该”の場合と異なり、主述フレーズの中に他の状語を含むことはできない。

例えば、(20)の例文

他明天在礼堂里讲话。

の“明天”を文頭に出した場合、

明天(应该/*得/*要)他在礼堂里讲话。

のように“应该”では成立したが、“得”、“要”では成り立たない。但し、この文から“在礼堂里”を取り除くと“得”、“要”でも成立する。

明天{得/要}他讲话。

(21)、(22)、(24)、(25)、(27)も同様である。

(21) →为了工作{得/要}经理请客。

(22) →关于这个问题{得/要}他讲话。

(24) →明天{得/要}经理请客。

主述フレーズを目的語に取る助動詞

(25) →关于这件事 {得/要} 他讲。

(27) →关于这件事 {得/要} 他讲话。

このように主述フレーズの中から状語を取り除くとすべて成立するようになる。

つまり“得”、“要”は主語を取り立てる場合、同時に状語を取り立てる事ができないのである。

“应该”の場合、

明天应该他在礼堂里讲话。

の“他”を強調したいのであれば“他”に，“在礼堂里”を強調したいのであれば“在礼堂里”にアクセントを付けて読み分ければ足りる。しかし，“得”、“要”の場合は2種類の文に分けなくてはならないのである。

*明天 {得/要} 他在礼堂里讲话。

→明天 {得/要} 他讲话。

→明天 {得/要} 在礼堂里讲话。

では、“得”、“要”は主語を取り立てる場合は他の要素を同時に取り立てられないかという例外がある。

時間状語と目的語、あるいは、場所状語と目的語を含む主述フレーズにおいて、どちらか一方を主題化した場合、他方を主述フレーズに残したままで成立する。

(23') 在礼堂里 {得/要} 他朗诵这篇文章。

(23'') 这篇文章 {得/要} 他在礼堂里朗诵。

(26') 明天 {得/要} 他看那本书。

(26'') 那本书 {得/要} 他明天看。

このような文において、時間状語あるいは場所状語と目的語は位置を交換することが可能なのである。

《可以》、《会》などその他の助動詞

状語、目的語の主題化という方法では主述フレーズをとれるようにならない⁴⁾。

5. おわりに

今回は、主述フレーズを目的語に取る助動詞についての簡単な報告にとどめるが、助動詞の取り立て機能、複文構造、対比構造における現れ方などについては今後の課題としたい。

<付記>

本稿はお茶の水女子大学中国文学科「244会」1995年度第2回例会及び日本中国語学会関東支部1995年8月例会における口頭発表に基づくものである。各発表に当たっては、相原茂先生はじめ多くの方々から貴重なご意見ご助言をいただいた。記して謝意を表したい。

<注>

1) 図1型助動詞

可能、应该、得、要、可以、会、など。

2) 別人去不行、得你亲自去。(複文構造)

可以他去、也可以你去。(対比構造)

3) 括弧付きの“要”は“可能”の場合は必要であるが、その他の場合は不要である。

4) 但し“可以”については主述フレーズの中の主語に数量詞が含まれる場合、主述フレーズを目的語に取れるようである。例えば、

在上海可以两个人当翻译。

下午可以两个人给我打电话。

などは成り立つ。この辺りの事情については今後の課題としたい。

<参考文献>

許和平1991 <漢語状態動詞語義和句法初探>《第三届国际汉语教学讨论会论文选》

北京語言学院出版社

呂叔湘1980《現代漢語八百詞》商務印書館

朱德熙1982《語法講義》商務印書館

劉月華等1983《實用現代漢語語法》語言教学与研究出版社